

事務事業名 学童保育運営事業

政策:04 だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり

施策:04 子育ての支援

部名:保健福祉部

課名:子育て支援課

基本事業:05 学童保育の充実

計画年度	年度	～	年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
保護者が就労等により昼間家庭にいない市内小学校低学年の児童				利用希望者の申請→審査→可否の決定 利用料1ヵ月7,000円（8月のみ8,000円）。 非課税世帯及び第2子以降については、利用料を減免し保護者の負担を軽減する。				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）								
児童の安全確保及び健全育成を図り、子育てを支援することで、保護者が安心して就労できる環境を整えます。								
4 活動指標・成果指標・事業費の推移								
区分	指標名称			単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	学童クラブ利用決定児童数			人	337	364	364	370
活動指標	利用申込書受付数			件	338	364	364	370
成果指標	待機児童数			人	1	0	0	0
成果指標								
事業費				千円	49,670	56,675	60,935	
				うち一般財源	千円	11,118	10,103	14,992
5 目的妥当性								
○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い				家庭において保育に欠ける小学校の児童が増加しており、次代を担う児童が健やかに育つよう健全育成し、保護者が安心して就労できる環境を整えます。				
6 上位の基本事業への貢献度								
● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→） ○ 基礎的事務事業				学童クラブ利用者数が増えることにより、より多くの児童の放課後の安全が確保され、保護者が安心して働くことができます。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討								
● 対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる ○ 対象や意図の見直しはできない ○ その他				受入対象とする学年を高学年まで拡大することにより、より多くの児童を受け入れることができるが、学童クラブごとに利用者数にばらつきがあり、全体的な公平性を保てないという課題があります。				
8 有効性（成果状況）								
● あがっている ○ どちらかといえばあがっている ○ あがっていない				新たに成東学童クラブの保育施設を建設したことにより、受入人数が増加した。今後は、保護者アンケート等を実施し、保護者の要望を把握することにより、ニーズにあった学童クラブの運営を行う余地がある。				
9 有効性（成果向上余地）								
○ 成果向上余地・大 ● 成果向上余地・中 ○ 成果向上余地・小・無し								
10 事業の再編成								
○ 類似の事業があり、再編成できる ○ 類似の事業はあるが、再編成できない ● 類似の事業はない				なし				
11 効率性（コスト削減の方法）								
● ある ○ ない				利用児童が少ない期間における効率的運営（お盆期間の合同開催等）				